

# 社会の中で生きる姿見る

映画というのは、宗教文化教育の教材としては実に魅力がある。いわゆる宗教映画はむろんだが、いろんなジャンルの映画に、宗教に関わる場面が登場する。それらは宗教が社会の中に生きていくとき、どんな姿をと

## 自著を語る

### 『映画で学ぶ現代宗教』



あるのは要注意だが。映画の中につかかえる宗教的テーマに目を向けてもらった本を書きたいと久しく思っていたのだが、一人では無理とも感じてきた。

周囲の研究者で似たような関心をもっている人

画を短く紹介した。

映画好きの人たちが執筆しているから解説は面白く、読むとその映画を観たくなるはずである。

映画の舞台になっている国・地域を図示し、各映画がどの宗教に関係するかを一覧にしてある。

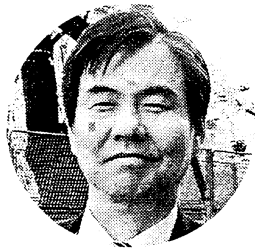
映画の選定にはいくつかのことを考慮した。キリスト教に比してイスラム関連の映画はそれほど知られていないので、意図的に多くした。アジアでは韓国映画を比較的多く扱った。キリスト教信者が三割を超す隣国の宗教文化は、もっと深く知るべきと考えてである。

映画を楽しみながら、宗教文化の理解が少しでも深まれば一石二鳥。まあ深まれば一石二鳥。まあ深まれば一石二鳥。まあ深まれば一石二鳥。まあ深まれば一石二鳥。

映画を楽しみながら、宗教文化の理解が少しでも深まれば一石二鳥。まあ深まれば一石二鳥。まあ深まれば一石二鳥。まあ深まれば一石二鳥。

るのかを見せてくれる。

私は以前からこの点をもっと講義に活用すべきと感じていた。映画の一場面を見せることで、とくに国外の宗教の理解に役立てようとしてきた。ときに誤解を伴う描写が



井上 順孝さん(国学院大学 神道文化学部教授)

いのつえ・のぶたか 1948年生まれ。著書に、『人はなぜ「新宗教」に魅かれるのか?』『神道入門』『図解雑学宗教』など。

(弘文堂・一九九五円)